非核奈良

森本孝順（唐招提寺長老）筆

2010年
5月15日
第91号

発行　非核の政府を求める奈良の会
〒630-8213　奈良市登大路町３６　大和ビル４Ｆ
奈良合同法律事務所気付
電話0742-26-2457 FAX26-3010　郵便振替01020-1-56459

私たちは非核の五項目を実行する政府を求めます

①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
②国是とされる非核三原則を厳守する
③日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

2010 非核平和の集い

6月19日(土)
（総会1:30～）

花垣ルミさんは爆心地から約1.7キロの広島で被爆、2005年のNPT会議に参加された後、被爆体験を語り始められ、その証言を聴いた佛教大学社会福祉学部 黒岩ゼミの学生さんたちによって花垣さんの体験をもとにした紙芝居が制作されました。

核廃絶署名を呼びかける花垣さん

「死んで無念 生きて無念の原子爆弾」
花垣ルミさんの講演と紙芝居

私は1945年8月7日5歳のときの朝（？）から58年間、8月7日前後2ヶ月間の記憶を無くしていた。2003年63歳のときの夏、生協の呼びかけに応じて広島の慰霊式典に参加した後、その報告書を作成中に突然、唐突に記憶が戻ってしまった。

灯篭流しの場面を思い出している時だった。広島の慰霊式典に参加した日から2005年のNPT参加をはさんで5年の月日が過ぎて、ようやく私の記憶が呼び戻された意味が分かったような気がして、語り部として歩き出した。しかし、5年の月日は短すぎて、話し出すと原子爆弾が投下されたあの場面が頭の中、目の前に瞬時に広がって、言葉が詰まる。それは7年経った今も変わらない。

何で私はこんなつらい思いをして語り部をしているのだろう…。いやだいやだと思ってしまう。原子爆弾が投下され、避難の道中に私が目にした、子供の私たちが毎日遊んだおもちゃ、もみ殻の入ったお人形がジブジブくすぶっている。私も似たような人形を持っていた。私のは…。

カゴに入ったまま焼け死んだ小鳥は、消し炭のようだった。犬や猫たちも…。ついさっき使ったであろう食器類、幼児だった私の目線は低い。そのようなものがどんどん飛び込んでくる。避難場所で気を失ったのか、眠ったのか、異様な臭いに目が覚めた。目に飛び込んできたものは、黒いゴムボートのように膨らんだ人、焼けただれた人、身体の部分だけしかない人、いっぱい、いっぱい…。叔母が「見ちゃダメ」と言って、私を腕の中に抱き込んだ。瞬間、私の意識が消えた。意識が戻った後も記憶を失くしたまま…。

花垣ルミさん
京都被爆者懇談会世話人
非核の政府を求める京都の会世話人

～ NPT渡米を前に ～

奈良の会にお招きいただきありがとうございます。今年のNPTにも参加しますが、その前にオハイオ州ディトン平和ミュージアムの副理事長であり、クロスカレンツ協会会長のビル・ショウさんに招かれています。オハイオ州にはアメリカ最大の空軍基地があり、保守系の人々が多く、原爆投下は知っていても「ヒバクシャ？生きてる？」の世界で、戦後65年経って始めて被爆者が足を踏み入れる歴史的な場所でもあります。言葉を選びながら話す必要があるかと思いますが、知性、理性を駆使して、小さな平和（小川）から、大きな平和（大河）へと変化する21世紀を願って、核兵器も戦争もない人類の平和へと願う大河の一滴を投じてきます。

花垣ルミ

うたごえは平和の力を確信

～ＮＰＴ再検討会議うたごえ代表団に参加して～

事務局長　今　正　秀

四時間で一〇〇〇筆を超えた核廃絶署名

今回のＮＰＴ再検討会議に、「日本のうたごえ」の代表団の一員として参加しました。うたごえでは、１９８２年のＳＳＤⅡ以来、節目節目に代表団を派遣してきましたが、今回は、奈良からの５名を含む106名が参加しました。うたごえ代表団は、原水協代表団とは別行動をとりながら、うたと和太鼓などのパフォーマンスを活かしての署名活動、大行進参加、リバーサイドチャーチでのコンサートと、連日の日程をこなしました。

ニューヨークに到着した翌日はグラウンド・ゼロと名付けられた、旧ツインタワー跡地を見学し、近くの公園で自由の女神像を背に「ねがい」を献奏。

２日目は、朝からセントラルパーク入り口で、うたと和太鼓の演奏をしながら署名活動に取り組みました。日本でもそうですが、うたや太鼓は人の足を止めます。そこへすかさず署名用紙を提示して、「Excuse me, please sign」と声を掛けました。もちろん、誰もがたやすく応じてくれるわけではありませんが、４時間で１０００筆を越す署名を集めることができました。10名に一人が応じてくれたとして、１万人近くに声を掛けたことになります。アメリカ人の中にも、核兵器廃絶を願う人が大勢いることを実感しました。

５月２日の大行進でも、行進前の集会開幕を飾ったのは、日本のうたごえ代表団の和太鼓演奏でした。その後は、広島・長崎両市長や世界各国のさまざまな平和団体からのアピール発言が１時間以上に及び、いよいよ行進出発。歌いながら歩いていると、同じように歌いながら加わってきたり、沿道で楽器演奏をして連帯の意思を表してくれる人もいました。まさに、音楽は国境を越える、です。到着した国連前ハマショルド広場での集会でもステージ演奏し、大きな拍手を浴びました。

和太鼓とうたでニューヨーク大行進
5月2日

３日目はリバーサイドチャーチでのコンサート。日本からの代表団などでほぼ満席となった聖堂に、日本のうたごえ代表団と、ニューヨークの労働者合唱団「レイバーコーラス」のうたごえが響きました。最後の「We shall overcome」は客席も総立ちとなり、参加者全員が心を一つにして歌い上げました。

今回の旅を通じて、うたごえが国境を越えて人の心を結び、核兵器廃絶の意思を伝え、その実現に向けての連帯を進める上で大きな力となることを、あらためて実感しました。この確信を胸に、核兵器廃絶の実現に向け、運動を進めていきたいと思います。

（奈良教育大学准教授）

セントラル・パーク前での行動（中央が筆者）
5月１日

書評

原爆症裁判傍聴日誌「にんげんをかえせ」

長谷川千秋 著

2010年1月発行
かもがわ出版
はせがわ・ちあき

1960年に記者として朝日新聞社に入社。東京本社学芸部長、名古屋本社、大阪本社各編集局長などを歴任。現在、非核の政府を求める京都の会常任世話人。

この本は近畿訴訟の六年余、2003年8月から2009年11月までのすべての裁判を傍聴された長谷川千秋さんがつけておられた傍聴日記を、京都原爆訴訟支援ネットが編集されたものです。さまざまな難病をお持ちの全国の被爆者の方々が、ご自分の体験や思いをさらけ出して「原爆で苦しむのは私たちを最後にして」と、それこそ死ぬ思いで証言され続け、ついに司法を動かし完全勝訴に導いた感動のドキュメンタリーです。

国の被爆基準の誤りを正すため、ご自分も被爆されながら六千人の被爆者の治療に携わってこられた肥田舜太郎医師の内部被曝についての証言、名古屋大学名誉教授・素粒子物理学の沢田昭二先生がご自分の被爆体験と認定基準について、また立命館大学国際平和ミュージアム館長の安斉育郎先生が放射線防護の立場から、それぞれ証言されたことが国の認定基準の誤りを正す力になり、メディアが声を上げ始め、世論が高まったことも政府を追いつめたのだと思います。

私は非核の政府を求める奈良の会で、肥田先生のお話を聞き、内部被曝の恐さを知りました。米国が占領政策によって被爆者の口封じをしたことが大きな原因とは思いますが、日本を初めアメリカ、そして国連も原爆が投下された時点での被爆のみを被爆としてきた現実があります。

直接の熱や爆風で亡くなられた方々、直接の放射線被害を受けられた方々、そして放射能によって汚染された建物や物品・被爆者の体から発する放射線で被爆された被爆者の方々など、様々な被爆で放射線被害を受けられた方々の受けた原爆被害の実相がこの裁判で認められ、裁判を闘われた方々の完全な勝訴となりましたが、現実には行政の怠慢で申請が滞留している現実を受け、現在認定申請中の被爆者の方々が「認定促進訴訟」を新たに提起されています。

被爆国の司法が認めた核爆発の被害が、やがては世界の原爆被害の常識になっていくと思われますし、そのことが何より大切な地球を守る力になると私は思います。

「反核医師の会」主催の学習会で、核兵器は原子力発電とはイコールで、放射線被害はどちらも同じだと、京大原子力研究所の研究者の方々からお伺いし、地球上から原子力を無くさなければ人類はもちろん、全生命が健やかに発展していくことはできないと思いました。

この一冊が各国語に翻訳され、世界中の人たちの愛読書となり、核兵器はむろん、原子力発電所もすべて廃棄される日を迎えるための強力な手引き書になってほしいと願わずにはおられません。

事務局　谷　さゆり

「非核2・5原則」は許せない

吉田 恒俊

核密約

岡田外相は、3月9日自民党政府によるアメリカ政府との密約について昨年9月に行った調査命令の結果を公表しました。いくつもある密約の中で、調査対象となったのは、①艦船の核持ち込み（1960年）、②朝鮮有事密約、米軍の自由出撃（60年）、③沖縄への核再持ち込み（69年）、④沖縄返還時の原状回復費用の肩代わり（71年）、の4つです。

結果は、①について「広義の密約があった」こと、②について密約文書は見つからないが「密約があった」こと、④について「広義の密約があった」ことを認め、③については「密約と言えない」としたが、大筋で密約の存在を認めました。

自民党政府が「密約はない」と言って、これまでその1月後の4月9日、東京地裁は、④の沖縄返還時の密約文書についての情報公開訴訟判決で、「存在しない」とする国の主張を認めず、文書の開示を命じるとともに、原告一人について10万円の慰謝料の支払いまで認めました。

国民を欺してきたことを明らかにした衝撃的な事件です。

密約を結びながら、存在を否定して国民を欺いてきた自民党は、何と釈明しているのでしょうか。安倍元首相のような「密約によって日本の安全が守られた」との開き直りは許せません。元外務省事務次官は、核艦船の寄港と通過は持ち込みではない、として「非核2・5原則」でよいと言っています。厳しく追及すべきです。　同時にアメリカに対しても、他国の政府と語らってその国民に隠して密約を結ぶことは他国の主権を侵す恥ずべき外交であり、厳しく批判すべきです。

問題はこれからです。民主党政府は「こんな密約の引き継ぎは受けていない」としてアメリカに拒否通告をすべきです。国民の代表である国会に隠して政府が憲法、条約または法令に反して行った約束は、無効であり、双方の国家を拘束しないと考えるべきです。

私たち国民も考え方をはっきりすべきです。日本がアメリカの核の傘に入ることがいいのかどうか、半世紀も前に作られた日米安保体制はこれまでと同じでいいのか、という基本問題に対してきちんとした結論を出すことが重要だと思います。

普天間基地問題もこの議論の中で解決されるべきではないでしょうか。鳩山首相には、国民の声を体して、国民とともに戦うという姿勢を求めます。「優柔不断、あいまい」などという世論の非難を呼んでいるのは、存外、基地は国外へ移せという国民の怒りを期待しての鳩山首相の高等戦術だと思いたいのです。

（弁護士・常任世話人）

反戦川柳作家「鶴彬（つるあきら）　こころの軌跡」上映会顛末

3月20日の上映会には、大勢お越しいただきましてありがとうございました。

昨年秋に、奈良映画センターからこの映画の上映について協力要請を受けました。私も川柳を詠む一人として、表現の自由が厳しく制限されていた時代に堂々と反戦の川柳を詠んだ若い詩人がいたこと、そしてそんな時代があったことを多くの方に知っていただきたいと思いました。しかし、鶴彬は小林多喜二ほど全国に知られている人ではありませんし、映画も低予算で作られた地味なものでした。上映会は何か付加価値を付けて盛り上げたいと思い、上映会の日程が決まった昨年末、上映にちなみ「いのち」の題で事前投句を呼びかけました。そして川柳142句が集まり、2名の撰者さんによる共選で秀句各一句、佳句十句が選ばれました。

いのち　秀句

背な丸め春の芽吹きを待ついのち　**石田　竜**

地球儀の裏も表も血の匂い　**辻　弘志**

入選句以外にもそれぞれの命に込めた熱いドラマを感じさせる句が寄せられ、撰者さんからも没にできない句がたくさんあってとてもむつかしい選考だったとうかがいました。実は私の句も一句佳吟に入りました。

沈黙の柩を包む星条旗　**よし子**

会場では、鶴彬の人となりを紹介するパネルや彼の句を書作品に仕立てて展示をしましたので、彼の熱い思いや彼が短い生涯をどのように生きたかなど映画以外からも理解していただけたかと思います。阪東博生さんは彬の「胎内の動き知るころ骨がつき」を篆刻（てんこく）作品にして、また鶴彬を最後まで支えた井上信子の句を吉田佑子さんが素晴らしい書作品にして会場を盛り上げて下さいました。多くの方々のご協力に感謝しております。

上映呼びかけ人　岡谷よし子

上映会当日のロビー展示風景

◇短歌

雨上がりに群れ来し目白十数羽
馬酔木（あせび）の花をしきり啄（つば）む　**辻　久子（会員）**

孫たちの摘みし土筆（つくし）の佃煮を
夕餉（ゆうげ）にそえて話ははずむ

藤の木は朽ちたる棚にまといつき
長き花房咲き初めにけり　**間鍋三和子**

（文芸9条の会奈良誌より）

沖縄戦跡を尋ねて

とよもして山の泣く日のあらざるや
数千（すせん）の兵の遺骨抱きて

持てる灯を消せば漆黒の闇の界
ガマに満ちみつる声のなき声

あんない

奈良県母親大会
5月30日(日)　9：30～16：00
生駒市中央公民館

午後の記念講演ではアーサー・ビナード（詩人）、溝江玲子（児童文学作家）さんとともに当会の今　正秀事務局長もお話します。

映画「鶴彬　こころの軌跡」
6月13日(日)　13：30
生駒コミュニティセンター文化ホール
主催　九条の会・生駒

奈良蟻の会合唱団コンサート2010
「永遠のみどり　～核兵器のない世界へ～」
6月27日（日）14：00
やまと郡山城ホール・大ホール

☆会の活動日誌

- 3月3日　常任世話人会
- 4月14日　事務局会議
- 5月12日　常任世話人会

☆今後の予定

- 6月19日(土)　奈良県文化会館多目的室　13：30～総会と非核平和の集い
- 7月1日　事務局会議
- 7月21日　常任世話人会

☆編集後記

若葉のおい茂る初夏というのに、まだ朝夕ひんやりしていますが、みな様お元気にお過ごしでしょうか。今年は五年に一度のNPT（核不拡散条約）再検討会議が3日から28日までニューヨークの国連本部で開かれ、世界の核兵器廃絶運動にとってとても大切な月。

2面には今（こん）事務局長のホットな帰国第一報をお伝えしています。ぜひお読みください。

国内では普天間基地問題がTVニュースでも大きく報じられるようになりましたが、沖縄にも奄美・徳之島にもどこにも民意に反する押しつけは許されません。徳之島の町長は上京して鳩山首相と会った時に伝えたと言います。「オバマ米大統領が〝核なき世界〟を宣言したなかで、唯一の被爆国である日本の首相は、オバマ大統領と会って軍縮を訴える資格と責任があるのではないか。基地を移すという議論ではなく、いまこそ軍縮を議論すれば、このような問題はなくなるだろう」と。

核も基地もない世界へ大きく歩みをすすめる今年の五月です。（郡安ひろこ）